

～ ポスターをより詳しく知りたい人のために ～

< 食べ残しを減らそう >

むだに消費される食べ物を減らすことで、食料資源を守り、燃やすごみなどを減らすことができます。

この行動はこれらのSDGs達成につながります。



世界を生徒40人の教室と考えると、その日食べるものがない、明日以降も食べ物を得られるか分からない状態の人が4人もいます。

◆2030年までに、貧しい人も、幼い子どもも、だれもが一年中安全で栄養のある食料を、十分に手に入れられるようにする必要があります。



過去40年にわたって、人びとが避難や移住をしなければならなくなるような自然災害の発生件数が大きく増えています。

◆2030年までに、大気の質やごみの処理などに特に注意して、都市に住む人が環境に与える影響を減らす必要があります。



世界で生産されている食品の約3分の1(13億トン)が捨てられています。日本の学校の給食でも、児童1人あたり、1年間に約7.1kgの食べ残しがあります。

◆消費者として責任ある行動を取り、2030年までに、お店や消費者のところで捨てられる食料(一人当たりの量)を半分に減らすことが必要です。



世界中で気候変動が起こっています。過去30年間の日本の熱帯夜の平均日数は、1910年からの30年間の平均の約2.6倍です。

◆気候変動から地球を守るために、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を減らす取り組みをするなど、今すぐ行動を起こす必要があります。



私たちが使っているペットボトルやビニール袋などのプラスチックゴミが年間900万～1400万トン(2016年時点)、海に流れ出ています。

◆2025年までに、陸上の人間の活動による、あらゆる海の汚染を防ぐ必要があります。また、魚介類の水産資源の全体の数を減らすことのないよう、海の資源を守り大切に使う必要があります。